

梶峯城について
説明していただき
ました！

梶峯城から多久の魅力を見

梶 峯城と多久城下町一帯は佐賀県の中央部として、また、肥前の東西勢力の中間に位置し、要所として歴史の舞台となってきました。

当初は梶峯山の麓に城が築かれ、人々から「城山」と呼び親しまれていたようです。

その後、少しずつ建設が進み、戦国時代頃には梶峯山の山頂に城が築られました。

城を守るために掘られた人工的な溝、堀切が今も残っています。

一国一城令（1615年に江戸幕府が発令）で廃城になっていますが、城の形状がどうだったのか、大手門、虎口はどこだったのか、などまだ調査中です。「水江事略」には梶峯城について“山嶮にして^{からほり}湟幾重〜”と記され、龍造寺長信の戦闘の様子などが描かれており、城山の様子が推測できます。

古文書をひもとくと、ロマンに満ちた歴史に胸が躍ります。

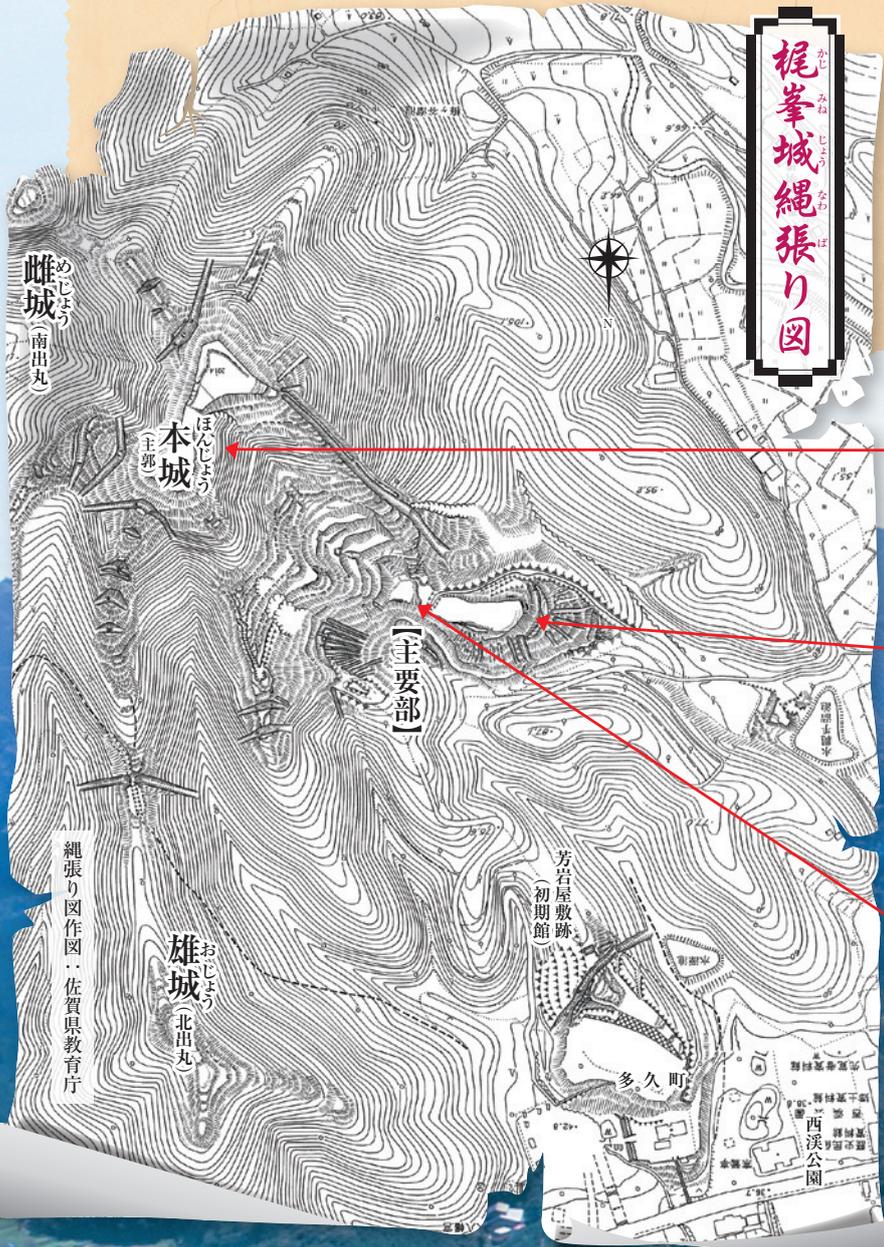
梶峯城を知ること、多久の素晴らしさに気付くきっかけになると嬉しいですね。



多久市郷土研究会 会長
尾形 善次郎さん

梶峯城跡出土湯釜 ▶
(多久市教育委員会蔵)

梶峯城跡（主郭北西曲輪）から出土した土製湯釜。



梶峯城縄張り図

山頂には、城下への抜け穴の入り口との伝説がある大穴が今も残ります。



大穴

※堀切

城を守るための人工的な溝。



虎口石塁



虎口は、城の主要な出入り口です。